

2019年10月08日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【通貨の代わりになれるもの】

現在、通貨(お金)の価値は、それぞれの国家が保証しています。

そして、その国家を信認することで、通貨(お金)が世の中で成り立っているわけです。

世の中の人々が、その絶対的な価値を認める『何か』でも、通貨の代わりになり得ることができます。

歴史的には「貴金属」、その代表として「金(Gold)」が世界で流通していました。

しかし、「金本位制」に戻ることは現実的ではありません。

なぜなら、現在、世界中で流通している通貨を兌換(だかん)するだけの金(Gold)が足りていないからです。

では、中国やインドなどで歴史上使われた宝石類(ルビー、サファイア、ダイヤモンド、玉璧(ぎよくへきなど)はどうでしょうか？

これはダメでしょう。

日本の安土・桃山時代に用いられた茶の湯道具など骨董品も、また無理でしょう。

宝石類や骨董品などは、万人が目利きできるものではありません。

では、江戸時代の米(食料)はどうでしょうか。

これもダメでしょう。歴史がすでに証明しています。

貯蔵に倉庫が必要であったり、品質を維持したりするのに手間がかかりすぎます。

金本位制度の時代でも、紙幣は画期的でした。

英国がポンドの「兌換紙幣」を発行することで、重くかさばる金(Gold)を運ばなくても済むようになりました。

代わりに、ポンドの「兌換紙幣」を運べばよくなったのです。

実際には税金などの問題があるので、現実的ではありませんが、現在でも、金(Gold)で決済することは可能です。

もので決済することを考えてみましょう。たとえば、原油です。

原油 1 バレル=50 ドルとすると、原油 100 万バレル=5000 万ドルです。

このときに、1 ドル=110.00 円とすると、原油 100 万バレル=5000 万ドル×110.00=55 億円になります。

大量の取引を行う際に、100 万バレルの原油を支払って、55 億円相当の品物を手に入れることは可能でしょう。

しかし、その場合には、原油 100 万バレルを受け取り、それを貯蔵できる設備が必要ですから、現実味は乏しいのですが・・・

ここで言いたいのは、現実的、実質的ではないものの、大量の品物は、お金（通貨）の機能を持ち得る、ということです。

しかし、お金（通貨）ほどの利便性がないために使われないだけ、ということです。

では、仮想通貨はどうでしょうか？

仮想通貨は、送金や決済のコストが安いことや、その利便性に評価があります。

ただし、現実の問題として、マネーロンダリングや脱税などの不正の温床になり易い欠点が挙げられます。

それぞれの国家（具体的には、それぞれの中央銀行）の立場からすれば、金融政策で縛ることができない分野が存在することになります。

そして、仮想通貨の利便性を現実の通貨が取り入れれば、仮想通貨そのものの存在意義が無くなる、と考えます。

仮想通貨は、その投機性によって急拡大した、と考えています。

しかし、その投機性は、一過性のものに過ぎず、いつまでも続くことはあり得ない、と考えています。

そう考えると、現実の通貨が、電子化されるなどの利便性を加え、そして、送金や決済の手数料を下げることによって、仮想通貨が淘汰されていくことになるのではないかと考えています。

+++++

(2019 年 10 月 08 日東京時間 14 : 30 記述)